

抗菌薬適正使用支援チームによる**感染症早期モニタリング**の実践

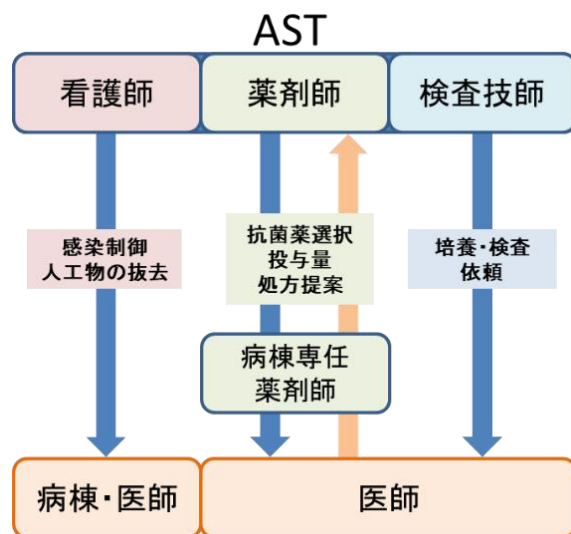
和歌山労災病院 薬剤部
中谷亮介

和歌山労災病院では、2018年1月よりASTを設置し、抗菌薬適正使用のための活動を開始した。従来の当院の感染制御チームによる症例検討は主に週1回の定期ラウンドによるものであったが、抗菌薬適正使用支援を実践する上では患者への早期介入が不可欠である。

そこで、当院では2018年4月より特定抗菌薬使用患者、検討すべき菌が検出された患者、抗菌薬投与前の発熱患者を対象に、毎日ASTによる感染症早期モニタリングを開始した。

【感染症早期モニタリングの実施方法】

感染症早期モニタリングはAST所属の薬剤師、看護師、臨床細菌検査技師にて、**毎日（原則、平日のみ）8時30分より**実施した。対象患者は、前日から感染症早期モニタリング開始までの間に特定注射抗菌薬(広域・抗MRSA)が開始となった患者、検討すべき菌が検出された患者(耐性菌・血培陽性等)、38℃以上の発熱を認めた患者とした。



場所:中央検査部(細菌検査室)
時間:連日8:30~(平日)

図: 感染症早期モニタリング

【感染症早期モニタリングの成果】

対象患者への介入率は36.4%であり、受諾率は92.2%であった(2018年4~12月)。広域注射抗菌薬において、カルバペネム系では長期投与率が有意に減少し、広域ペニシリン系及びキノロン系では投与日数が有意に短縮された。菌血症患者においては取り組み開始後、30日死亡率が15.5%から5.4%に有意に減少した。(2017年4~12月 vs 2018年4~12月)